

第三回気候変動対策有識者会議提出資料

東京大学理事・教授 石井菜穂子



東京大学 グローバル・コモンズ・センター



日本の脱炭素2050宣言の戦略的価値

国際的な視点から

脱炭素2050は21世紀の成長・雇用戦略ー日本がリードできるカードが満載

◆ 行き詰った20世紀型の経済モデルの限界

- 直線型の化石燃料ベースの経済モデルが地球環境の容量の限界にぶつかる

- 気候変動、地球環境劣化、社会の格差拡大
- コロナ以前から生産性停滞、低水準の投資・成長・雇用

◆ 21世紀型の経済モデルへの転換の分水嶺

■ エネルギーのトランジション

- ✓ 電源構成、省エネ、経済構造の中への再エネ由来電力の展開

- 食料システムの循環型への転換
- 都市の作りかた・住まいかた
- 経済のサーキュラー化

日本は戦略的に対応 →さらなる政策整合性

地球温暖化対策計画

エネルギー基本計画

「みどりの食料システム戦略」ー海外からきわめて高い評価

「プラスチック資源循環促進法案」ー経済構造をサーキュラーに変える必殺技

国際協調の意義（G7からCOP26へ）ー日本のリーダーシップへの期待

- 直面している危機の性質は「国際公共財」ー皆でやらないとうまくいかない。コロナ禍の早急・公正な回復
- 協調の効果ー先進国統一プラン→**革新の源泉**、世界共通政策・ルールの構築、カーボン・プライシング、金融制度、**投資枠組み**共有と前倒し、MDBを駆使して途上国へ展開、自然資本活用
- プレゼンスの大きな排出途上国に対して、「One Voice」でアプローチできる。アジアの石炭火力早期撤退スキーム